＜様式３＞

学校園教育推進サポート事業　報告書

学　番	2206	学校名	新潟市立木戸中学校	校長名	鈴木　善士	作成者名	熊木　由佳
学校教育推進サポート担当者名			熊木　由佳			電　話	025－274-2615

１　実践のテーマ

児童生徒間の支持的風土醸成を目指し、教職員の実践的指導力を高めるための校内研修

～これからの社会で自信をもって自己実現していける児童生徒の育成～

２　テーマ設定の理由

木戸中学校区では、目指す子ども像を「失敗をおそれず　粘り強く挑戦し続け　自信をもつ子ども」と定め、幼小中一貫した取組を地域と共に実践してきた。終わりの見えない国際紛争や未知のウイルスの感染拡大、地球環境問題など、これからの生徒たちは「予測困難な時代」を生きていくことになる。それらを乗り越えていくためには、自ら課題を発見し、仲間と力を合わせて、主体的に解決へ向かっていく力が必要である。日々の日常生活、特に授業を通じてその力を高めていくためには、教職員の実践的指導力が重要である。これまでの「一斉講義型」の授業は、「与えられた課題を正確に解く」ことが重視されてきたが、そうした学びだけではこれからの時代を乗り切ることはできない。「Society5.0（超スマート社会)」を生き抜く力を子どもたちに養う上で、「個別最適な学び」や「協働的な学び」は、不可欠な学びだとされている。

木戸中学校の生徒は、素直で明るく、互いを思いやりながら活動する基盤ができている。与えられた課題に真剣に取り組むことができる一方で、自らゴールを設定し、自分の可能性を広げていこうとする意欲と自信が高い状態とはいえない。また、個別の支援計画を作成している生徒だけでなく、日頃から繰り返し声かけが必要な生徒も増加している。学級内の支持的風土を醸成し、生徒同士が声を掛け合い、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を実践することで、自分の可能性を広げ、自己肯定感が高まるものと考える。

テーマの実現に向けた取組により教職員がコミュニケーションを密にすることで実践的指導力を高めるとともに、教職員一人一人が使命感をもって教育活動に臨むことで、これからの社会で自信をもって自己実現していける生徒を育成していきたい。

３　実践内容

①校内研修の充実

OJT

研究目標を『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化な充実に向けた、授業プランの構築』と設定し、新潟市教員の資質向上に関する指標をもとに、公開授業の参観回数を決定し、教職員個々の成長を意識した取り組みを実施した。

第１ステージ（１～６年目）	第２ステージ（７～１３年目）	第３ステージ（１４年目～）
１　習得期	２　習熟期	３　充実・還元期
学級経営、教科指導等の担当業務を中心に、児童生徒と誠実に向き合いながら、授業力の基礎・基本と教師としての素養を習得する。	校外研修やOJTを積極的に活用して専門性を向上させ、担当業務遂行能力や授業力を高める。	自己の教師力にさらに磨きをかけるとともに、他の教職員が教師力を向上できるように支援する。
参観回数　５回以上	参観回数　４回以上	参観回数　３回以上

＊授業者は「授業プランシート」を作成し、単元計画や目指す生徒像などを明記する。参観者は「参観シート」に新たな気づきや学びを記入して、情報を共有する。

要請訪問研修

総合教育センターの堀田雄大指導主事による要請訪問研修を実施し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に対する意識を向上させた。

スキルアップミニ研修

教職員のコミュニケーションの活性化を目的として、チャットＧＰＴやキャンバの活用方法、自己分析講座などをテーマにしたスキルアップミニ研修を企画した。

②小中合同研修・交流授業参観

木戸中学校区の３校合同夏季研修で「新潟県環境と人間のふれあい館」へ訪問し、新潟水俣病についての学びを深めた。また、定期的に小中交流参観を実施し、「学習」・「生活」・「総合的な学習の時間」・「特別活動」・「特別支援教育」の５つのテーマで分科会を開き、情報共有したり、３校で統一して取り組む内容を確認した。

③子ども支援コーディネーターによる小学校訪問研修

新採用の教職員を中心とした若手教職員が小学校へ訪問し、小学校の日常生活で行われている児童への指導やサポートを学ぶ実地研修を実施した。

４　実践計画

実施時期	実施内容
５月	（1）小中交流授業参観 木戸中学校の授業公開と分野別協議会の実施
６月	（2）総合教育センター堀田指導主事による要請訪問研修 講義テーマ『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化な充実に向けた、授業プランの構築』 （3）子ども支援コーディネーターによる小学校訪問研修① 牡丹山小学校への訪問
７月	（4）スキルアップミニ研修① ICT 支援員による、アプリケーション「キャンバ」の活用方法
８月	（5）３校合同夏季研修 「新潟県環境と人間のふれあい館」へ訪問 （6）スキルアップミニ研修② 教職員をファシリテーターとした自己分析講座
７月～１２月	（7）校内 OJT　公開授業の実施
１０月	（8）子ども支援コーディネーターによる小学校訪問研修② 竹尾小学校への訪問
１月～	（8）スキルアップミニ研修③ ICT 支援員による、チャット GPT の活用方法 （9）OJT 振り返り（研究推進委員会）

５　成果

１、校内研修の充実

校内研修研究主題「生徒の自己肯定感を高めるための個別最適な学びと協働的な学びの実現」を設定し、特別なニーズをもつ子どもたちの多様性と包摂性を高めるため、校内 OJT や要請訪問研修、スキルアップミニ研修を導入した。その結果、以下の２点の成果を挙げることができた。

①これまでの授業内で各自工夫していた様々な手法を「指導の個別化」「学習の個性化」「協働的な学び」に置き換え、さらには ICT 端末を有効活用することで、生徒一人一人を丁寧にサポートすることができた。また、「授業プランシート」を活用することで、単元の目標や目指す生徒の姿を明確にした単元デザインを構築することができた。また、スキルアップミニ研修では、教職員のコミュニケーションの場を多く設定することで、互いに学び合う風土ができた。

②年度末学校評価より

「授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか？」

⇒肯定的回答　８４．９％

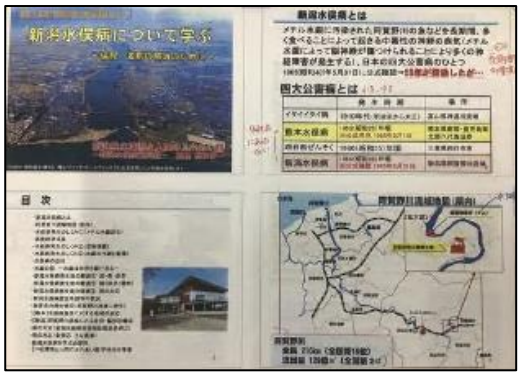
「友達や先生と学ぶことで新たな問を発見したり、話し合う良さを感じたりすることが良くあります。」

⇒肯定的回答　８９．４％

以上の結果から、生徒が自ら考え、主体的に学ぶ態度と意欲を育成することにつながっていると考えられる。

２、小中合同研修・交流授業参観

夏季休暇に行われた３校合同夏季研修では、「新潟県環境と人間のふれあい館」を見学したあと、「語り部」の方の話を聞いたり、新潟水俣病について詳しく学んだりすることができた。この研修を通して教職員として児童生徒に伝えていかなければならい様々な事実と向き合うことができた。３校の事後アンケート結果より、「普段、学校外で合同研修する機会が少ないので貴重な体験になった。」「小中が同じ視点で人権同和教育の理解を深めることは重要である。」といった、肯定的回答が９７％となった。交流参観日では、中学校の授業を公開し、分科会で有意義な話し合いを実施することができた。



３、子ども支援コーディネーターによる小学校訪問研修

当校で実施している子ども支援コーディネーター事業と連携し、新採用の教職員を中心とした若手教職員の、小学校への訪問研修を実施した。決まった授業を参観するのではなく、休み時間や給食の時間、児童と教職員の日常的なやりとりやサポート方法など小学校の日常生活全体を参観することで、生徒指導や授業の工夫、そして子ども支援コーディネーターの役割などについて学ぶことができた。

＜新採用アンケート結果＞

「小学校訪問は現在の小学校の状況を知ることができるいい機会である」・「小学校訪問を通して、先生方・児童の良い取り組み、良い姿があった」⇒肯定的回答 100%

＜新採用教職員のアンケートより＞

・「来年度入学してくる児童の様子を直接見ることができて大変参考になりました。また、小学校の先生方の指導方法を参観することで、中学校との違いに気づき、大きな学びを得ることができました。」

・「小学校の先生方が、一人一人と丁寧に向き合っている姿を見ることができて、とても勉強になりました。子ども支援コーディネーターの取組についても詳しく知ることができてよかったです。」

⇒以上の結果から、小中連携の力を発揮するためには、実際の児童生徒の姿を見ることが何よりの研修であると感じた。経験が浅い若手教職員だからこそ多くを見て学ぶ機会が重要である。